

H27年度 女性応援講座

DV被害者支援のための

# サポーター養成講座

平成27年6月18日(木)  
～7月16日(木)

計4回

キラッ☆とよた

DVの被害を受けた人へのサポートができる方、またそのグループを育成するための講座です。

全4回にわたり、DVに関する基礎的な知識や、DVが被害者や子どもの心身に及ぼす影響、DV被害の実態、サポーターの必要性、自分ができるサポート活動などについて学びました。グループワークもふんだんに取り入れ、受講者同士の意見交換の中で新たな発見や気づきも生まれ、また交流も深まった講座となりました。

#### 第1回「DV被害者と支援の現状」

平成27年6月18日(木) 午前10時～正午 出席者 10名

講師 女性問題専門相談員

##### ●各受講者の自己紹介と受講の動機

全員の受講者に、この講座への参加動機、今まで興味を持って学んできたこと、活動してきたこと、サポーターとして今後どのような活動がしたいかなどを踏まえ自己紹介。

##### ●DV被害者の支援と現状

DV被害に対してどんな支援があるのか、情報コーナーの展示や図書なども見ながら、2グループに分かれ意見を出し合う。出た意見を模造紙にまとめ、発表。

受講者は、「こんなに公的な支援が整っているのに、被害がなくなるのが不思議」「知らない相談窓口がたくさんあった」などの感想を全員で共有した。

併せて、平成24年実施の豊田市DV実態調査概要版を用いて、豊田市における被害の現状を説明。

##### ●DVサポーターの必要性とは？

DV被害者への支援は、行政による公的支援体制は整っているものの、それを知らない人、知ってはいるが支援の窓口まで踏み出せない人などは、まだまだいると思われる。そういった潜在的な被害者に手を差し伸べられるのが支援グループの存在意義である。



## 第2回 「求められるDVサポーターの存在」

平成27年6月25日(木) 午前10時～正午 出席者 10名

講師 女性問題専門相談員

### ●DVがおきる社会背景とジェンダー

まず、男女共同参画から性別役割分担意識の説明をし、受講者の生活の中ではどのような状況か、男女不平等だと思ふ場面はあるか、自由に意見を発表してもらった。「職場は男女平等だと思ふが、家庭では私が家事、育児をするのが暗黙の了解」「職場でも、男性の意見の方が重要視される」「夫が多忙なため家事、育児は私が担っている。会社がもう少し家庭への配慮をしても良いのではと思ふ」などの意見が出た。

依然として「男性優位」の構造を感じてしまう社会の中で、家父長制の名残などから、そのような風潮がDVを助長する要因にもなる。

### ●暴力の種類、パワーとコントロール、暴力のサイクル

暴力には様々な種類があること、DVは加害者と被害者の支配・被支配の関係を作ってしまうこと、暴力のサイクルに巻き込まれることによって、被害者は自尊心を失ったり無力感にさいなまれ、暴力環境から抜け出す判断能力を失くしてしまう。

### ●事例をとおしてDVを理解する

情報誌「クローバー」の掲載記事「ある日の相談室」を基にした創作事例を使って、どのような行為がDVにあたるのかを考える。殴る、ののしる、尊大な態度を取る、など比較的分かりやすい暴力は全員がすぐに気づいたが、「『暴力をふるったあとはすぐに謝り優しくなる』という態度は加害者の特徴であり、それが暴力環境から抜け出しにくくする」という講師の解説が加えられた。

### ●配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律 法律の概要を説明。

### ●加害者対策

DV加害者の特徴、国による更生プログラムなどの説明。

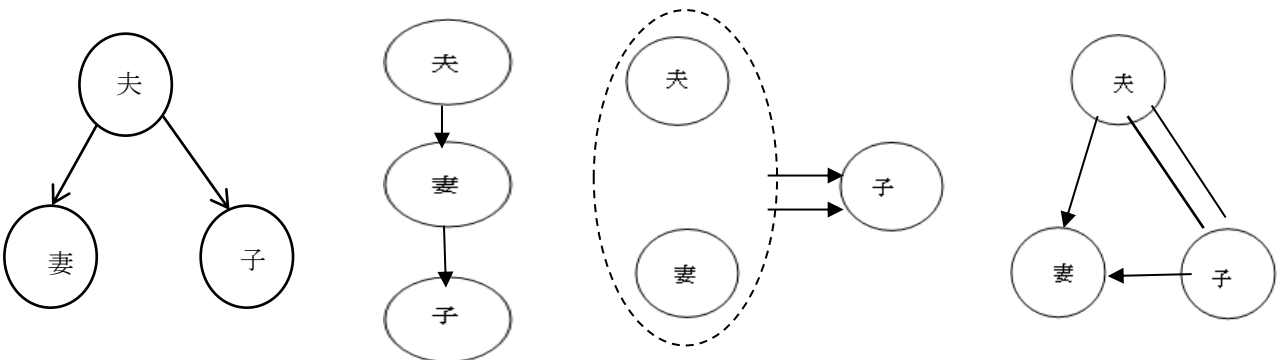
## 第3回 「サポーターの役割」

平成27年7月9日(木) 午前10時～正午 出席者 13名

講師 女性問題専門相談員

### ●DVが被害母子に及ぼす影響

図を使い、DVが家庭の中の関係性に及ぼす影響を説明。



## ・女性への影響

恐怖、不安、緊張、うつ、無力感、過度の警戒心、何も感じない(夢を見ているフワフワした感じ)、感情の浮き沈み(抑え込みと爆発を繰り返す)、集中力・記憶力・思考力の低下、摂食障害、アルコール・薬物乱用...

## ・子どもへの影響

うつろな表情・凍りついた目、低い自己評価、不登校、完璧な優等生であろうとする、教師への過度の愛着行動や攻撃行動、孤立、不眠、家出・徘徊、援助交際...

## ・母子支援プログラムの紹介

### ●被害者はなぜ暴力から離れられないのか

「考えてみよう」の2つのワークをとおして、被害者の心境を理解する。

①もし、あなたがDVから逃れ明日から全く知らない土地で新たな生活を始めなければならぬとしたら、失うものは何があるか、考えてみましょう。

②もし、あなたが次のような状況だとしたら、何もかも捨てて新しい生活を始めることは容易なことですか。

- ・「よいパートナーと立派な家庭を築いている」と親や親せきから思われている
- ・パートナーは社会的地位の高い職業で、離婚するとそれを傷つける
- ・子どもは不登校だったが、新担任になってから登校できるようになってきたところである
- ・夫婦の名義でローンを組んで家を購入した
- ・職場でやりがいのある仕事を任されている
- ・障がいを持っており、介助するボランティアがいないと生活が困難
- ・夫婦とも高齢で、あと数年もすれば夫と死別するかもしれない

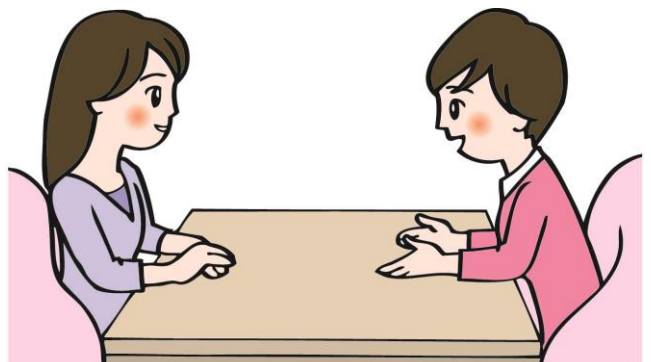
### ●サポーターとして必要なこと

「支援の最終目的は、被害者が自分のことを自分で決められるようになること」である。

「自分のことを自分で決める」という、人間が本来持っている力を取り戻してあげられるような関わり方をすることが、サポーターには求められる。(エンパワーメントの視点)

### ●DVサポーターとしての心構え

- ①秘密保持、プライバシーの保護に気を配る
- ②被害者の安全を確保する
- ③対等平等な関係を保つ
- ④できないことは引き受けない
- ⑤バーンアウト(燃え尽き症候群)、代理受傷に気を付ける



## 第4回「サポーターの活動」

平成27年7月16日(木) 午前10時～正午 出席者 16名

講師 女性問題専門相談員

### ●支援活動の実践

自分が行いたい支援、求められる支援はどのようなものがあるか、2グループに分かれて意見を出し合う。話し合いには、第1回でまとめた模造紙を再利用。第1回するときには気づいていなかった視点、新たな考えなども出てきて、受講者それぞれが成長を実感。



### ●これからの支援活動

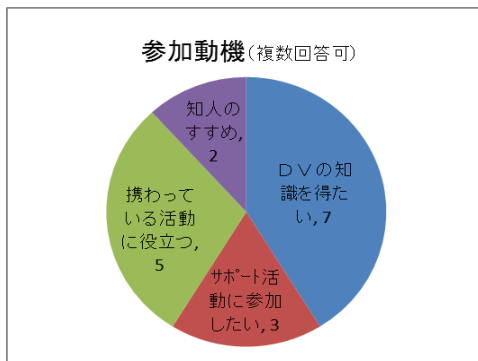
グループで支援活動をする事の大切さ(活動の幅が広がる、役割分担ができる、安全の確保など)を説明。

### ●支援グループによる活動紹介

ニュー☆パワーの会

- ・サポーター養成講座の卒業生を主メンバーとして平成22年に結成。5年目になる。
- ・自分たちができる範囲で、無理のない支援を行っている。
- ・グループで活動していると、方向性など意見が分かれたりしてまとめることが大変だが、それだけメンバーが意欲的に取り組んでいる証拠である。
- ・パープルカフェの紹介。

## ★★受講者感想★★【抜粋】



←(講座への参加動機)

参加の動機から、初めから「サポート活動をしたい!」と決めている人よりも、「DVの知識を得たい」と思っている人の方が多く分かります。

関心はあるけれど、何から始めたら良いの?という方は、ぜひ受講してみてください。

- ・相手の立場に立つこと、寄り添うことがとても大事だと思った。この思いを活かしていきたい。
- ・DVについて改めて考えることができた。少しでも他の人に伝えていけたらと思う。
- ・外見では知ることができない悩みを抱えている人が多いこと、その人からのSOSに気づくことの難しさ、何気ない一言で二次的被害を与えているかもしれない、ということを知った。
- ・被害者の立場に立って、丁寧に動きたいと思う。
- ・自分が被害に遭っていたときに困ったことなどを実現できたらいいと思った。相手の思いを、決めつけずによく聴いてあげられるようになりたい。